

真宗大谷派（東本願寺）天満別院

六字城

ROKUJIJO

2023/5/1

No.702

大阪市北区東天満 1-8-26
06-6351-3535
http://www.tenma-betsuin.jp
代表者 輪番・武宮 信勝



宗祖650年記念句碑 明治43年9月（1910年）



念仏者のしるし
「勿体なや」へのすがた

武宮 信勝

～勿体なや 祖師は紙衣の九十年～ 彰如（句仏）上人 御染筆

その後宗祖親鸞聖人は、御命終90歳に至るまで、「生死出ずべき道をば、ただ一筋に仰せられ候いし」「恵信尼消息」と奥様の恵信尼公がお手紙に語られている。後の世を生きる私達のために「教行信証」「三帖和讃」はじめ、数多く信心の表白書を書き残された。そのお書物に出会い、阿彌陀仏の御本願に生きる事ができた一人として、如来の御恩徳を詠んだ歌が、彰如上人の「勿体なや 祖師は紙衣の九十年」でなかつたのでなかろうか。

京都東山の青蓮院に永く伝わる宗祖がお得度の時に使用された剃刀が、この度の慶讃法要のために、当院の東伏見慈晃門主さんから直々に「御剃刀一時お移し」という形で御本山にて、初めて一般に公開されたと聞きました。想えば9歳の年若き宗祖が、春の夕暮れ、叔父（日野範綱）に連れられ慈円和尚のもとでお得度の儀式、鬢髪（びんぱつ）の剃除がなされた「御伝鈔」に記されている。この時の宗祖の思いが和歌に「明日ありとおもう心のあだ桜 夜半に嵐の吹かぬものは」と、今もなお言い伝えられている。私は大学2年20歳の時、御本山で得度をいたしました。宗祖の仏道入門のお志を想うと、誠に恥ずかしさが込み上げてきます。

大谷暢裕ご門首・裕新門さま御導師のもと、阿彌陀堂、御影堂の両堂で同時に勤行された慶讃法要に参拝しました。役柄3回のご縁をいただきましたが、両堂がほぼ満堂の参拝の人々で埋め尽くされたことに感動し胸が熱くなった。門徒離れ、慕じまいが進む中でこの法要が機縁となり、一人の念仏者がひとりでも多く誕生していただくことをひそかに願ったことでした。多彩な催しものが境内内外で行われておりました。中でも私の目に深く止まったのは、「慶讃テーマ館」で展示された宗祖親鸞聖人のお得度の「剃刀」（オカミソリ）でした。

法要・行事予定

5月		
7日	花まつり	(13時)
12日	闍如上人御逮夜・常永代経	(14時)
13日	闍如上人御命日 兼日中	(8時)
22日	常如上人御祥月御命日	(8時)
24日	定例法話 入江 賀彦師 (第13組道德寺) 「仏さまのまなざし」	(13時30分)
27日	宗祖聖人御逮夜	(14時)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中 法話 輪番 武宮 信勝	(8時)

6月		
5日	同朋の会	(14時)
12日	闍如上人御逮夜・常永代経	(14時)
13日	闍如上人御命日 兼日中	(8時)
18日	存如上人御祥月御命日	(8時)
24日	夏の御文法要 稲垣 直来師 (第17組徳因寺)	(13時30分)
25日	天満別院合唱団「みのり」	(14時)
27日	宗祖聖人御逮夜	(14時)
28日	宗祖聖人御命日 兼日中 法話 輪番 武宮 信勝	(8時)

おあさじにお参りしましょう！！

毎朝7:45分～8:30頃まで
※土、日は職員による感話があります。一人でも多くのご参拝をと、願っています。



定例法話

定例法話は、多彩な講師陣がわかりやすく真宗のみ教えをお話ししてくれまます。5月の定例法話は左記の通り開催されます。

日時 5月24日(水) 13時30分
場所 天満別院 本堂
御講師 第13組道德寺住職 入江 賀彦師
講題 「仏さまのまなざし」

今月の伝道掲示板

損か得か
人間の物差し
嘘か誠か
仏さまの物差し
— 相田みつを —

編集後記

今年度から表紙写真が「天満別院の宝物、仏具、句碑」をテーマとし、様々な角度・視点で掲載してまいります。報告記事の通り、新年度行事も始まりました。一人でも多くの方に足を運んでいただけるように、ホームページ他、4月には、インスタグラムも開設しました。皆様に行ってみたいなど思っていただけ更新していきたく思います。年度が変わり、新しい環境等で心身の疲れが出る頃です。皆様におかれましてもご自愛ください。(H)

寺町という歴史ある地域に
根ざした老舗葬儀社

(株) 天満花重

〒530-0041
大阪市北区天神橋 3-4-6
電話 (06)-6351-3875
FAX (06)-6351-6260

～ご縁を大切に～

日下念珠店

〒600-8174
京都市下京区烏丸通花屋町下る
TEL075-351-6325 FAX075-341-5255
https://www.kyo-kusaka.jp



14組妙隆寺 辻岡 由記子 師

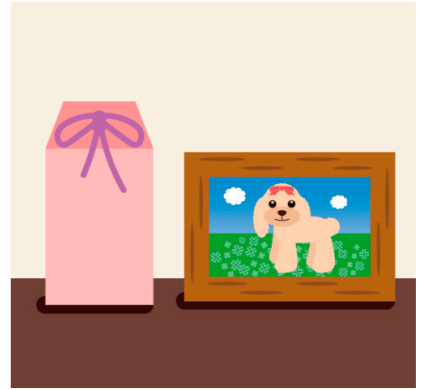
4月24日(月) 御講師に14組妙隆寺 辻岡 由記子師をお迎えし、講題「ありのままの自分へ縁に導かれて」についてお話いただきました。師は、自身の生い立ちを話される中で「縁」について述べられ、人生において大切にされるもの、不要なものが何かを「あいいうえお作文」を通して拝聴されていた方々と一緒に考えました。また、清沢 満之氏や川村 妙慶氏を紹介され、書籍の引用などを用いて自身の「縁」についての考えをお話されました。

報告

4月 定例法話

Q&A

ペットが亡くなりました。どうすればよさしいでしょうか。



答え

日々と一緒に過ごしてこられたペットとの別れは大変つらいことだと思います。家族の一員として、どんなときも純粋なまなざしを飼い主のあなたに向けてきたことでしょう。本当にかけがえのない思い出はたくさんおありだろうと思います。心静かに「ありがとう」と手を合わせてください。お別れの儀式は人間の場合と全く同じにはできないとは思いますが、火葬されたあと、お骨を持ち帰り静かな場所においてあげてください。そしてご縁のあるお寺にご相談してはいかがでしょうか。

限りのある命を生きて私たちと過ごしてきたペットに感謝する「時間」を作ってみてもいいでしょう。ぜひこの機会に自分の命についても考えてみてください。限りがある命を受けて私が今ここに生きているというかけがえのない心に心を向けてみましょう。ペットの面影とともに命の大切さを考えてみてはいかがでしょうか。

また、ペットは人間のように煩悩はないといえます。常に純粋な心を教えてくれていたと思います。お腹がすいたら食べ物欲しがり、眠くなれば眠ります。ペットは人間が好き嫌いや自分の都合で悩み苦しんでいるという事を教えてくれたのでしよう。ペットからの純粋な心を取り戻してほしいという大切なメッセージを聞いていきたいものです。

(第14組 本行寺 小谷 淳也)

仏前結婚式



去る4月8日(土)、天満別院において加藤 孝法様、下村 佳苗様の仏前結婚式を執り行いました。ご結婚おめでとうございます。

別院では仏前結婚式を随時受付しております。真宗の結婚式は、阿弥陀如来の尊前で、誠に深い因縁によって遇う事の出来たお二人が、その一生を共に生きていこうと誓いをたてあう厳粛な儀式です。

あなたのお子様、もしくはお孫様で結婚式を考えておられる方は是非おすすめてください。ご相談、下見等のお問い合わせは寺務所までご連絡ください。

告知

天満別院 花まつり開催

― 天上天下唯我独尊 ―

別院では、今年も花まつりを開催いたします。去年復活した花まつりをもっと盛り上げた皆さんの子供達にも参加して欲しいとの願いのもと様々な企画を考えました。

たくさんの子供たちに参加していただきたく左記の通り開催いたします。当日はNPO法人「縁遊くえんじょい」様にもご協力いただき、新鮮な野菜を税込1000円で取り揃えた野菜マルシェを開催いたします。保護者の方はもちろんもお楽しみください。

日時 5月7日(日) 13時〜灌仏(甘茶掛け) 会場 天満別院本堂・境内 催物 ブتونくん来院 生花体験 射的

大阪教区同朋大会 開催

大阪教区同朋大会が左記の通り開催されます。今回の同朋大会は新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により、会場の難波別院本堂の座席をコロナ以前に比べ減じており、オンラインでの映像配信を活用しながら開催させていただきます。

日時 6月24日(土) 午前10時 会場 難波別院 本堂 テーマ 私たちは何を求めて 生きているのだろうか 講師 伊藤元氏 (九州教区京都組徳蓮寺前任住職) 参加費 一人1000円 ※5月22日(月)までに天満別院までご連絡ください。

同朋の会

― 造幣局の桜の通り抜け ―

去る4月10日(月) 同朋の会が開かれ別院でお話の後、今回も造幣局の桜の通り抜けに行き親睦を深めることができました。



「門徒の皆さんとの記念写真」

トルコ・シリア救援金

被災地の支援の一助となるよう、被災地救援募金箱の設置を行いました。皆さまから、総額15,415円の心温かい救援金が集まりましたことを報告いたします。皆様からお預かりした救援金は、大阪教務所を通じて日本赤十字社等へ全額寄付いたします。多くの皆様の温かいご支援に厚く御礼申し上げます。

「慶讃法要」 団体参拝

去る4月15日(土) 天満別院門徒会の総勢28名で、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」に参拝しました。私たちは、予め指定されていた阿弥陀堂に座らせていただきました。定刻の十時、静寂しきった御堂に微妙の雅楽が奏でる中、新門さまが静かにご出仕され、両堂同時におつとめが始まりました。

約二千人の御同朋と共にお正信偈を唱和し、親鸞さまのご恩徳に遇い得た慶びを噛み締めておられました。また、国立博物館での「親鸞展」にもおむき、親鸞さまの生涯と御書物にふれ、「一層、身近な親鸞さんを感じる」ことができました。



御本山団体参拝の様子